








L-ドキシソルピシン+ベバシズマブ療法

【治療スケジュール】

以下のメニューのおくすりを3週間毎繰り返します。

				← 1クール →	
				第1日目	2~21日
薬剤名	外観	液色	薬効	投与方法	点滴
① デカドロン注		無色	むかつき、吐き気及びお薬による過敏症を抑えます。	↓ 15分・点滴	お休み
② 5%ブドウ糖注		無色	治療前の流しです。	↓ 15分・点滴	
③ ドキシル注 [®] (L-ドキシソルピシン)		赤色	細胞増殖を抑えます。	↓ 1.5時間・点滴	
④ 5%ブドウ糖注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 30分・点滴	
⑤ 生食注		無色	治療前の流しです。	↓ 15分・点滴	
⑥ ベバシズマブ注 [®] (ベバシズマブ)		無色	細胞増殖を抑えます。	↓ 30~90分・点滴	
⑦ 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 15分・点滴	

※お薬の投与速度・投与間隔が変わることがあります。

※また、症状に応じてお薬を変更・追加・削除することがあります。

【注意事項】

点滴中は安静にし、注射の針を刺している部分が動かないように心掛けてください。

お薬が皮膚に漏れると、針を刺している部分に違和感や痛み、腫れ、赤み等が現れることがあります。

このような症状がありましたら速やかにお知らせください。

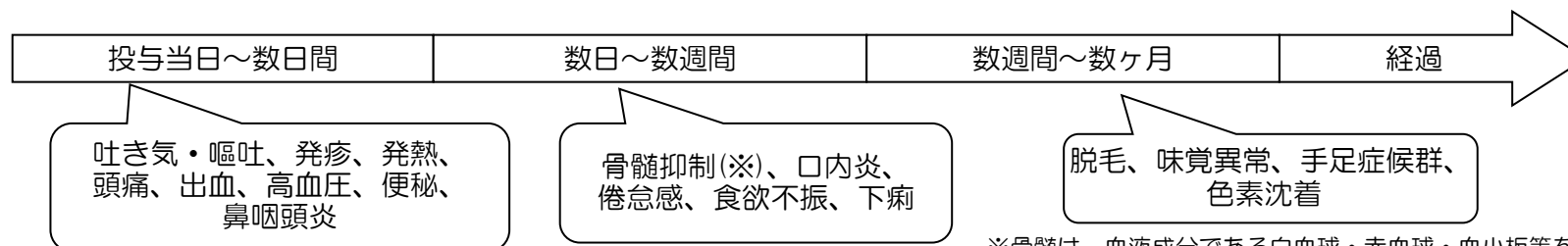
また、このような症状は点滴終了後や、しばらくたってから起こることがありますのでご注意ください。

ドキシル注を点滴した後の初めの尿が赤くなるがありますが、お薬の性質によるものですので問題ありません。

ただし、赤みを帯びた尿が続くようでしたら、速やかにお知らせください。

【副作用と発現時期】

ここにはあくまで一般的に予想される副作用が、いつごろ現れるかをお示ししています。これらの症状が必ず起こるということではありません。発現頻度・程度・時期には個人差があります。また、これら以外の副作用が現れることもありますので、症状が現れた時はお知らせください。



※骨髄は、血液成分である白血球・赤血球・血小板等を産生する臓器です。骨髄抑制とは、その機能が低下することを言います。

【注意が必要な副作用】

次に示すような副作用が報告されています。下記の症状が現れた時は医師または薬剤師へお知らせください。

- 骨髄抑制 : ★38℃以上の発熱、咳、下痢、排尿痛・残尿感、性器痛、肛門痛、鼻血、血便・血尿、歯茎出血、腕や足の赤い斑点、疲れやすい、めまい・息切れ
- 過敏症 : ★呼吸困難、じん麻疹、眼および口の周囲の腫れ、冷汗、頻脈
- 心障害 : ★呼吸困難、足などのむくみ、咳の増加、胸痛、みぞおちや頸部の締付け、圧迫感、冷汗
- 腎障害 : ★顔・手足などのむくみ、尿量減少、尿が赤みを帯びる、体重減少、口の渇き、高度の蛋白尿
- 消化器症状 : ★突然の激しい腹痛、背部痛、重度の下痢、脱水症状、もたれ、胸やけ、吐き気、嘔吐、食欲不振
- 脳障害 : ★突然の激しい頭痛、意識障害、歩行時のふらつき、四肢末端のしびれ感、舌のもつれ、うまく話せない、けいれん発作、精神状態変化、視覚異常
- 肺障害 : ★胸痛、意識障害、呼吸困難、(空)咳、発汗、発熱、ピンク色の痰がでる、尿量減少、むくみ
- 血栓 : ★意識を失いそうになる、身体の麻痺、ろれつがまわらなくなる、激しいめまい、胸が痛んだり締め付けられるような感じ、足がむくんだり痛みが出る、突然の息切れ
- 高血圧 : ★我慢できない頭痛、気分が悪く吐き気がする、意識がもうろうとする、けいれん
- 創傷治癒遅延 : ★傷口が治りにくい、傷口がひろく、傷口からの出血
- 出血 : ★口から血を吐く、血便、鼻血や歯肉、膣からの出血

連絡先 大津赤十字病院

TEL 077-522-4131

平日8:30 ~ 17:00 受診されている診療科
平日17:00 ~ 翌8:30 及び休日 救急外来

皮膚症状に対する治療薬について



★以下のお薬は、皮膚の症状を予防するためのものです。
治療のお薬が始まったら、一緒に使い始めて下さい。

分類	医薬品名	用法用量
保湿薬	ヘパリン類似物質 [®] クリーム 	1日6回 手のひら・足のうらの保湿

★以下のお薬は、皮膚の症状が出てきたら使用して下さい。

分類	医薬品名	用法用量
ステロイド薬	アンテベート [®] 軟膏 	1日2回 手のひら・足のうらに 赤み・痛みが出た時

★お薬を使用する際の注意点

- 2種類の外用薬が処方されますので、使用部位や回数を間違えないようにしましょう。
- 外用薬を重ねて塗る場合、保湿薬→ステロイド薬の順番で塗りましょう。
- 別に医師の指示がある場合は、指示に従ってお薬をご使用ください。

外用薬の塗り方（単純塗布法）

★ポイント

- 外用薬を塗る時は、必ず手を洗いましょう。
- 狭い患部に塗る時は、指の腹部を使い、広い患部には手のひらを使います。
- お薬をすり込むのではなく、皮膚に刺激を与えないようにやさしく塗りましょう。

ステロイド薬

指の腹でお薬をとり、患部に薄く塗り広げるように塗ります。

保湿薬

手にとり、塗る部分に点在させます。指先ではなく、手のひらを使って、やさしく丁寧に、出来るだけ広い範囲に塗ります。

外用薬の塗布量

- 外用薬の塗布量を表す単位として[FTU]が使われています。
- 1FTUとは軟膏剤・クリーム剤は人差し指の先端から第一関節まで絞り出した量、ローション剤の場合は手のひらに1円玉大に出した量を表します。
- 1FTUで大人の手のひら2枚分に相当する面積を塗布することができます。

